

暖房編

床暖房

就寝や外出の30分前にスイッチを切る、またはおでかけモードなどに設定する。

エアコン

節電効果※ (削減率)	割合
重ね着などをして室温を下げる。(右記の節電効果は22℃→20℃の場合)	2.7%
フィルターを月に1、2度清掃する。	0.8%
窓に厚手のカーテンをかける。	0.8%
風向きを水平に対して60°以上の下向きにし、暖かい空気を下方へ届ける。	—
扇風機やサーキュレーターを併用し、部屋の上部の暖気を循環させる。	—

電気カーペット こたつ

節電効果 (削減率)	割合
こたつの使用時間を半分にする。	1.0%
必要な広さを暖める。(右記の節電効果は面積を半分にした場合)	0.9%
電気カーペットの下に断熱マットを敷く。	—
上掛け布団や敷き布団などを活用し、保温効果を高める。	—

冬の電 今こそ！ 節

SAVING ENERGY

炊事

皿を洗う時の水温を下げる。
鍋を温めるときは事前に水滴をふき取り、ふたをする。
炊飯器の長時間保温をしない。

キッチン編

冷蔵庫

節電効果 (削減率)	割合
冷やし過ぎを避け(強→中)、開閉回数や時間を減らし、食品を詰め込み過ぎない。※食品の傷みに注意してください	1.5%
熱いものは冷ましてから入れる。	—
壁と適切な間隔を空けて設置する。	—

照明編

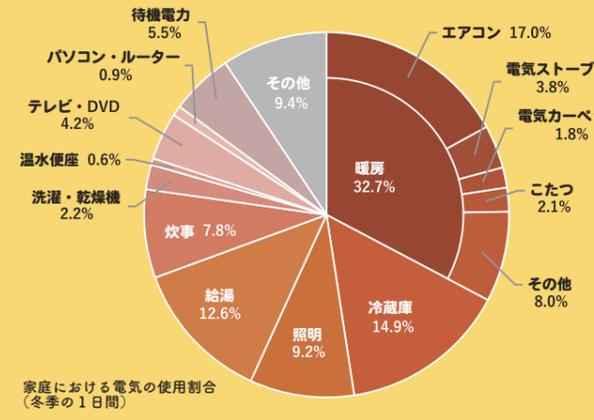
節電効果 (削減率)	割合
不要な照明は全て消す。	4.5%
リビングなどの部屋の明るさを下げる。	1.5%
小まめに照明器具を掃除し、本来の明るさを維持する。	—
待機消費電力を減らすため、リモコンではなく壁のスイッチで電源を切る。	—

参考：経済産業省『冬季の省エネ・節電メニュー』

冬は電気やガスなどのエネルギー消費が多くなる季節。夜が長いため暖房などを付ける時間が伸びたり、給湯の使用が増えたりと、夏よりも光熱費が高くなる傾向にあります。しかし、今冬は国からの節電要請や燃料費の高騰など、例年以上に省エネの取り組みが求められています。

まずは家庭での節電から

今月の特集では、家庭での電気使用割合の32.7%を占める「暖房」と、冷蔵庫と炊事を合わせて22.7%を使用する「キッチン」、家全体に関わる「照明」に分け、無理なくできる省エネのポイントを紹介します。



国からの節電要請

今冬の電力需給は、全国で瞬時的な需要変動に対応するために必要とされる予備率3%以上は確保されているものの、厳しい見通しです。もし、大規模な発電所のトラブルが発生した場合、安定供給ができない可能性が懸念されます。加えて、ロシアのウクライナ侵略により、国際的な燃料価格は引き続き高い水準で推移しており、燃料を取り巻く情勢は予断を許さない状況です。需給ひっ迫時への備えをしっかりと講じつつ、無理のない範囲で節電への協力をお願いいたします。

要請期間 3月31日(金)まで



※「節電効果」は、1日間の家庭での電気使用量に対する節電効果の概算値です。気候条件などによって節電効果は変動します



その他

その他にも、節電できる方法はたくさん！まずは自分のできるところから、無理のない範囲で取り組みましょう。(下記の表は一例です)

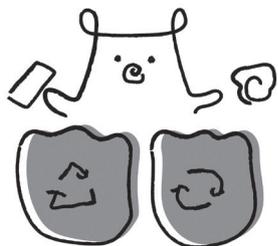
節電効果
(削減率)

テレビ	省エネモードに設定し、画面の照度を下げる。見ていない時は消す。	1.0%
温水洗浄便器	タイマー節電機能を利用する。(機能がない場合は、便座保温・温水の設定温度を下げ、便座のふたを閉じる)	0.2%
洗濯機	容量の8割以上を目安にまとめ洗いをする。	0.3%
乾燥機	衣類乾燥機(洗濯機の乾燥機能含む)や浴室乾燥機は、部屋干しと併用して、使用時間を短くする。	0.5%
省エネ製品	蛍光灯や白熱電球をLEDに、古いエアコンを新しい省エネエアコンに、給湯器を高効率なものに替えるなども効果的。	—

二酸化炭素排出量を実質ゼロへ!

ゼロカーボンシティ宣言

もっと知りたい人は、
環境省脱炭素ポータル
をチェック!



野々市市では、2050年の脱炭素社会の実現に向けて取り組みを加速させるため、令和4年3月7日、ゼロカーボンシティ[※]を宣言しました。

※ゼロカーボンシティ……環境省が定義した「2050年に二酸化炭素を実質ゼロにすることを旨とする首長自らまたは地方自治体として公表した地方自治体」のこと

節電や省エネも「ゼロカーボンシティ」を目指す取り組みの一つ。脱炭素社会のために、身近なアクションから取り組んでみましょう。



栗市長へトロフィーと賞状の授与



ラッシュャー板前さん(審査員長)もう中学生さん(司会)と市担当者

CM撮影の様子

第21回石川ふるさとCM大賞 野々市市がローカルクラフト賞!

北陸朝日放送(HAB)の番組『ふるさとCM大賞』が今年も開催されました。県内19市町がまちの魅力を伝えるCMを作成し、出来を競うこの番組。今回は「未来へ伝えたいふるさとの魅力」をテーマに、SDGs達成を目指す思いや取り組みを表現した珠玉の30秒CMが集まりました。

野々市市は、市内をくまなく巡るコミュニティバスのつていを取り上げました。マイカーの移動に比べて二酸化炭素排出量が少なく、バス停までのウォーキングも健康的。そんなつていの魅力を伝えるCMが評価され、ローカルクラフト賞を受賞しました。CMは、市公式YouTubeでも公開中。ぜひ見てみてください。出演:野々市市明倫高校演劇部

NONOICHI CITY CHANNEL
NONOICHI CITY CHANNEL
野々市市公式YouTube

